

難治性消化管瘻孔に対するbFGF製剤局所投与法

群馬大学病態総合外科学
准教授 浅尾 高行
教授 桑野 博行

繊維芽細胞増殖因子basic FGFは創傷治癒に重要な役割を果たしている。臨床においては、スプレー式のbasic FGF製剤、フィブラストスプレーが、皮膚潰瘍や褥瘡の治療促進を目的として広く用いられるようになっていく。教室では、basic FGF製剤を調剤し難治性消化管瘻孔の保存的閉鎖に用いてその有効性を検討している。

【方法】ヒアルロン酸にフィブラストスプレーの溶解前の製剤を無菌的に混和しゼリー状のbasic FGFジェル製剤を調整した。

水溶性造影剤で瘻孔を造影したのちアトムチューブもしくは内視鏡の鉗子からERCP用のチューブを用いてbasic FGFジェルを瘻孔内に投与した。

【症例】62歳、女性。

【現病歴】

骨盤腹膜炎の診断で、膿瘍ドレナージ、単純子宮全摘出術、子宮付属器摘出術が施行されたが、術後第二病日よりドレーンより便の排出を認めたため、横行結腸人工肛門造設、開腹ドレナージ術を施行。その後、直腸瘻が形成されたため、経腔的腔断端閉鎖術が行われたが、挿入されたドレーン(図1)から便と尿が排出され、膀胱直腸瘻となった(図2)。保存的療法を行ったが難治性で閉鎖しないため、術後性難治性膀胱直腸瘻の診断にて紹介入院となった。慢性関節リウマチにてステロイドを常用しており、また数回にわたる手術既往もあり本人が手術に忌避的であることから十分なinformed consentのもと、basic FGF製剤の瘻孔内投与50 μ g/dayをおこなった。

【結果】週一回の瘻孔造影にて経過を観察したところ、徐々に瘻孔の狭小化(投与後38日目 図3)及びドレーンからの便、尿の排液減少を認めた。投与開始から約2ヶ月半後、ドレーン抜去すると瘻孔の閉鎖が認められた。

【考察】皮膚の創傷治癒促進薬として用いられるbasic FGFは、皮膚潰瘍や褥瘡以外にも外科領域における応用範囲は広い。瘻孔に投与する際には、瘻管内の肉芽組織に薬剤が一定時間、接している必要がある。瘻管内の壊死物質や尿や消化液、細菌から健全な肉芽組織を保護することも早期閉鎖のための重要因子と思われる。抗癌剤や照射療法、ステロイドの使用など正常な組織修復の障害が想定される病態下においてはbasic FGFジェルが有用と思われる。



日本創傷治癒学会
2007.8
No.40

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel. 03-3353-1211

(内線62269)

fax.03-3353-2681

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>



図1 横行結腸ストマと左下腹部のドレーン、尿と便の流出が認められた。

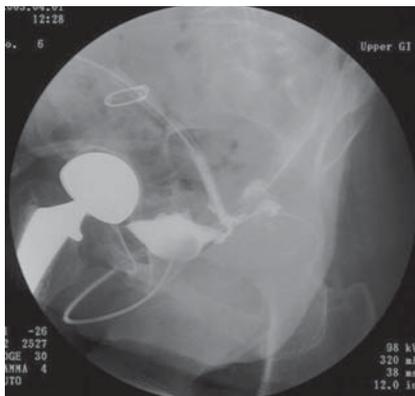


図2 治療開始時のドレーンからの瘻孔造影。直腸と膀胱が造影される。



図3 治療開始後38日目の瘻孔造影。瘻管の縮小化が見られた。ドレーンを少しずつ抜去したところ瘻孔の閉鎖が認められた。

ホームページにカラーの写真を掲載しています
URL: <http://www.jswh.com>

日本創傷治癒学会 役員一覧 (2007.3現在)

【五十音順敬称略】

名誉会員 阿部令彦、阿部力哉、井口 潔、石引久彌、磯野可一、稲山誠一、内田雄三、遠藤光夫、岡田 正、落合武徳、掛川暉夫、櫻井健司、塩谷信幸、杉町圭蔵、田井良明、田中 隆、田辺達三、鶴藤 丞、林 四郎、藤城保男、三島好雄、三輪晃一、森 昌造 (23名)

特別会員 青木照明、浅野伍朗、磯本浩晴、市川英幸、岩橋寛治、大浦武彦、加藤紘之、金澤暁太郎、上石 弘、小平 進、齋藤和好、杉立彰夫、鈴木邦夫、田澤賢次、中村輝久、中山一誠、西岡 清、船曳孝彦、細田泰弘、前田昌純、松野正紀、丸山圭一、宮内好正、毛利喜久男、渡辺洋望 (25名)

理事 石井壽晴、大谷吉秀、岡田保典、小野一郎、*北島政樹、黒柳能光、嶋田 紘、中島龍夫、野崎幹弘 (9名)

監事 熊谷憲夫、田尻 孝 (2名)

事務局幹事 吉田 昌 (1名)

評議員 相川直樹、赤坂喜清、秋田定伯、秋野公造、浅尾高行、穴澤貞夫、安藤暢敏、石井壽晴、磯貝典孝、岩井武尚、上田和毅、内沼栄樹、大谷吉秀、大野真司、岡 博昭、岡田保典、小野一郎、加藤広行、川上重彦、貴志和生、北島政樹、北野正剛、木山輝郎、窪地 淳、熊谷憲夫、黒柳能光、桑野博行、古森公浩、近藤稔和、雑賀司珠也、坂本長逸、佐々木健司、笹嶋唯博、佐藤道夫、真田弘美、篠澤洋太郎、嶋田 紘、島田光生、調 憲、白水和雄、須釜淳子、鈴木茂彦、須田年生、炭山嘉伸、高野邦夫、竹之下誠一、田尻 孝、館 正弘、田畑泰彦、田原真也、塚田邦夫、徳永 昭、渡会伸治、鳥居修平、鳥飼勝行、中島龍夫、永田見生、中塚貴志、中西秀樹、名川弘一、野口 剛、野崎幹弘、畠山勝義、百束比古、平林慎一、保阪善昭、丸山 優、森口隆彦、吉田 昌、吉村陽子、和田則仁 (71名)

第37回 日本創傷治癒学会のご案内（第2次）

第37回日本創傷治癒学会を下記の通り、開催いたします。

会 長： 嶋田 紘（横浜市立大学大学院医学研究科 消化器病態外科学）

会 期： 平成19年12月 6日(木) ～ 7日(金)

会 場： 横浜ロイヤルパークホテル <http://www.yrph.com>

〒220-8173 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-3

TEL：045（221）1111〔代表〕

みなとみらい線 「みなとみらい駅」より徒歩3分

JR京浜東北線・横浜市営地下鉄 「桜木町駅」より徒歩5分

プログラム： ・ 新しい創傷管理（縫合材料を含む）

・ 創傷治癒と感染対策（創感染の予防と治療）

・ 再生医療のUpdate（Stem cell／分子生物学的アプローチ）

・ 癒痕の防止と治療

・ 褥創治療の最前線

・ 難治性潰瘍のトピックス

* 外人招請講演：Patricia A Hebda (Editor-in-Chief of *Wound Repair and Regeneration*
University of Pittsburg School of Medicine)

予定

連絡先： 第37回 日本創傷治癒学会事務局

住 所： 〒236 - 0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9

横浜市立大学大学院医学研究科 消化器病態外科学

事務局 渡會 伸治

TEL :045 (787) 2650

FAX :045 (782) 9161

URL : <http://www.congre.co.jp/jswh2007>

なお、演題募集などの学会最新情報は、当学会ホームページ<http://www.jswh.com/>
をご参照下さい。また、演題申し込みはUMINシステムを用いたインターネットオンライ
ン登録によります。